

京都言語文化学院教育活動評価

自己点検・評価表

点検・評価項目	評価
1. 教育理念・目的等	
(1) 理念・目的・育成人材像は定められているか	A
(2) 学校の特色を定めているか	A
(3) 学校の将来構想を抱いているか	A
(4) 理念に基づく教育が行われているか	A
評価・対応 学生たちの多様な要望に応えられるように尽力し、開設時に掲げた理念に基づいた運営を心掛けている。	A
2. 学校運営	
(1) 運営方針は定められているか	A
(2) 事業計画は定められているか	A
(3) 運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	A
(4) 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	A
(5) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	A
(6) 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	B
(7) 危機管理体制は整備されているか	B
(8) 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されているか	A
評価・対応 新型コロナウイルス感染症で落ち込んでいた在籍者数も回復し、定員の増員も実現した。避難訓練、避難器具、避難経路等の整備が必要である。	A
3. 教職員	
(1) 教育理念・目的が教職員間で共有されているか	A
(2) 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	A
(3) 教職員評価を行っているか	B
評価・対応 教職員の個性・特性を生かして、教育の質の向上に取り組んでいる。	A
4. 教育活動	
(1) カリキュラムは体系的に編成されているか	A
(2) 授業評価の実施・評価体制はあるか	B
(3) 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	A
(4) 教育評価は適切に行われているか	A
(5) 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	B
評価・対応 定期及び随時の面談を通じて、各種日本語試験対策や卒業後の進路指導の充実を図り、学生の目標・目的に対応した教育活動を行うほか、隔月でアルバイト調査を実施した。	A

5. 学生支援	
(1) 進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	A
(2) 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	B
(3) 学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	A
(4) 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	A
(5) 保護者と適切に連携しているか	A
(6) 卒業生への支援体制はあるか	B
評価・対応 個々の学生の勉学上、生活上の問題、特に法令順守に関するサポート、指導を定期的な面談等を通じて行っている。本国の関係者との連携にも努めている。今年度は結核対応に注力した。	A
6. 在留管理と生活指導	
(1) 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	A
(2) 日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	B
(3) 我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	A
(4) 常に最新の学生情報を把握しているか	A
評価・対応 入国管理局からの情報をいち早く把握し、適宜対応するほか、学生にも周知している。また、日本で安心して平穏な生活を送るために必要な情報の提供に努めている。	A
7. 学生の募集と受け入れ	
(1) 学生の受け入れ方針は定められているか	A
(2) 学生募集活動は、適正に行われているか	A
(3) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	A
(4) 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	A
(5) 適正な定員設定及び在籍者数になっているか	A
評価・対応 学生を受け入れるにあたり、書類審査、オンライン面接を通し入学者を選抜している。真摯な教育活動の結果、募集も順調に進んでいる。	A
8. 財務	
(1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	A
(2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A
(3) 財務について会計監査が適正に行われているか	A
(4) 財務情報公開の体制整備はできているか	A
評価・対応 新型コロナウイルス感染症の影響はしばらく残ると思われるが、それにあわせて、定員増を行い、収入の安定化を図った。	A
9. 法令等の遵守	
(1) 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	A
(2) 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	A
(3) 自己点検・評価の実施と問題点の改善に努めているか	A

(4) 自己点検・評価の結果を公開しているか	A
(5) 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	A
評価・対応 日本語学校として、法務省の法令、設置基準を満たすように努めている。関係省庁への定期報告はその都度余裕をもって行った。	A
10. 社会貢献	
(1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	B
(2) 学生ボランティア活動を奨励・支援しているか	B
評価・対応 地域社会との交流等は限られている。学校の人的、物的資源を活用する人材の確保が困難である。	B
総評 1. 積極的な募集活動により、順調に募集が行われた。 2. 教育活動は概ね適正に行われたが、日本語能力試験の合格率向上に努める必要がある。 3. 卒業生全員の進路は確定した。 4. 地域に根差した日本語学校として発展できるよう、自治会との連携を図っていく。	
作成：2024年 3月 26日	